

金沢市

堅田館跡 かたたまち

出土品：石川県指定文化財（考古資料）

かなざわし かたたまち もりもとがわ きゅうりょうすそ いとな
堅田館跡は金沢市北部の堅田町にある、森下川右岸の丘陵裾で営
かまくらじだい ちいきゅうりょくしゃ
まれた鎌倉時代を中心とした（約700～850年前）の地域有力者の館の
ほり しきちない
跡です。約100m四方の堀に囲まれた敷地内に複数の建物があり、堀の中
ゆにゆうじき ぶぐ ぼぐ さいしぐ
からは生活用品や中国からの輸入磁器、武具・馬具、祭祀具など多種多
いぶつ しゅつど ほんにやしんぎょう
様な遺物が出土しました。中でも、般若心経全文と年号を記した
かんじょういた みんぞくぎょうじ
巻数板と呼ばれる板は、当時の民俗行事を知る上で貴重であるだけで
なく、同時に出土した遺物の使用年代を特定する重要な手がかりとなっ
ています。堅田館跡の出土品は、ちゅうせい ちほう しはいかいそう
中世の地方における支配階層の生活
様式を知る上で欠くことのできない大変貴重な資料であるといえます。



堅田館跡の遠景



遺跡の位置図